

[ たばこの吸殻をごみ箱に捨てて出火（屋内） ]

- 1 出火日時 3月 17時頃
- 2 出火建物 専用住宅 木造2階建
- 3 火災程度 部分焼
- 4 死傷者 負傷者 70才代男性1名
- 5 原因概要

この火災は、2階居室内のごみ箱から出火したものです。

居住者の70才代の男性が、灰皿にたまっていたたばこの吸殻の消火を確認せずに樹脂製のごみ箱に捨てたために、ごみに着火し出火したものです。

なお、初期消火をした際、煙を吸い込んで軽症を負っています。



6 予防対策

喫煙時、たばこ中心部の温度は700℃から800℃前後にもなり、その吸殻を不用意に捨てると、捨てる場所によっては火災になることがあります。

たばこの吸殻を捨てる場合は、完全に消えているか確認し、水をかけてから燃せるごみとして捨てましょう。

また、灰皿にはいつも水を入れておくようにしましょう。

[ たばこの吸殻を枯草に捨てて出火（屋外） ]

- 1 出火日時 1月27日 12時頃
- 2 出火建物 建物被害なし
- 3 火災程度 枯木、枯草及び廃材若干焼損
- 4 死傷者 なし
- 5 原因概要

この火災は、居住者の60才代の男性が自宅の庭でたばこを吸い、庭のコンクリート製土間でたばこを揉み消した際、火種がコンクリート製土間の亀裂に落ち、その周囲の枯草に着火し近くの枯木及び廃材に燃え移ったものです。

幸いこの火災による負傷者や建物への延焼はありませんでした。



6 予防対策

屋外で喫煙する場合は、灰皿のある場所で喫煙するようにしましょう。また、身近に灰皿がない場合は携帯灰皿を携行し、吸殻を投げ捨てないようにしましょう。

喫煙後の火の始末を確実に行うよう心がけると共に、喫煙時の火種の落下にも注意しましょう。

[ たばこの火種がこたつ布団に落下して出火 ]

- 1 出火日時 3月 16時頃
- 2 出火建物 専用住宅 木造平屋建
- 3 火災程度 全焼
- 4 死傷者 負傷者 80才代女性1名 50才代男性1名
- 5 原因概要

この火災は、居住者の80才代の女性が、自宅居室内のこたつでたばこを吸い、本人も気付かないうちに、火種がこたつの掛け布団の上に落ち、その後居眠りしてしまったため、布団及び畳に燃え込んで、約2時間半経過した後に出火したものです。

なお、この火災により、居住者の女性は全身に火傷を負い、また、この女性を救出した男性も火傷を負っています。



6 予防対策

たばこを吸う場合は、火種の落下に注意しましょう。また、寝たばこはやめましょう。

たばこのような小さな火種でも、木綿や畳などの可燃物に落下した場合、条件がそろえば最初は炎を出さずにこれらに燃え込みながら燃焼が継続し、時間の経過と共についには炎を上げ、火災に発展することがあります。

[ ガラス製灰皿が割れて出火 ]

- 1 出火日時 1月 13時頃
- 2 出火建物 共同住宅 木造2階建
- 3 火災程度 部分焼
- 4 死傷者 なし
- 5 原因概要

この火災は、共同住宅2階の居室内から出火したものです。

居住者の60代男性がたばこを吸い、その吸殻を座卓下のガラス製の灰皿に捨てたが完全に消えていなかったため、灰皿内に堆積していた他の吸殻に着火し、ガラス製の灰皿が割れ、たばこの吸殻が飛散し周囲の畳等に延焼拡大したものです。



6 予防対策

ガラスや陶器製の灰皿は、灰皿の内側と外側に大きな温度差を生じると破損することがあります。

このことから、こまめに吸殻を捨て灰皿に吸殻を溜めないようにしましょう。また、灰皿には水を張り、吸殻は完全に消すようにしましょう。

[ 寝たばこで出火 ]

- 1 出火日時 2月 17時頃
- 2 出火建物 専用住宅
- 3 火災程度 ぼや
- 4 死傷者 負傷者 40才代男性1名
- 5 原因概要

この火災は、40才代の男性が寝たばこをし、体の具合が悪く、たばこを消すことなくそのまま寝てしまったため、たばこの火種が布団に接触し、時間の経過と共に出火したものです。

なお、居住者は火災の熱さで目が覚め、掛けてあった布団が燃えていたので消火しようとしたのですが、消火しきれず延焼拡大しています。

また、居住者はこの火災により火傷を負っています。



6 予防対策

「寝たばこは絶対にしない」ことです。

そして、たばこを吸う場合は喫煙場所を決め、灰皿は水を入れておきましょう。

また、灰皿の周囲には燃えやすいものを置かないようにしましょう。